

神奈川県金融経済概況（2013年4月分）

I. 概況

神奈川県の景気は、持ち直しに向けた動きが拡がりつつある。

すなわち、企業部門をみると、生産は持ち直しに向けた動きが拡がりつつある。輸出は下げ止まっている。設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、弱めの動きもみられるが、労働需給面では緩やかに持ち直している。この間、個人消費は底堅い動きとなっているほか、住宅投資は持ち直している。公共投資はこのところ減少している。

金融面をみると、貸出、預金ともに増加傾向を維持している。

II. 実体経済

(1) 生産：持ち直しに向けた動きが拡がりつつある。

- ・ 県内工業生産で大きなウエイトを占めている輸送機械は、輸出向けを中心に、持ち直している。
- ・ 素材関連は、デジタル機器関連の高機能材料が低調な状況を脱しつつあることや、鉄鋼などが持ち直していることから、総じてみれば緩やかに持ち直している。
- ・ 電気機械は、重電関連や自動車向け電子部品が堅調に推移する一方、薄型テレビ・パソコン向け電子部品が低調なことから、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 一般機械は、海外の自動車・航空機向け工作機械が堅調なものの、はん用機械類が低調であることなどから、総じてみれば緩やかに減少している。この間、半導体等製造装置については、持ち直しに向けた動きがみられている。

(2) 輸出： 下げ止まっている。

- ・ 為替円安など輸出環境の改善を受け、下げ止まっている。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 3月短観における13年度の設備投資計画をみると、これまで抑制してきた投資を実施する先がみられることなどから、製造業、非製造業ともに増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 弱めの動きもみられるが、労働需給面では緩やかに持ち直している。

- ・ 3月の有効求人倍率は前月を上回った（前月差+0.01ポイント）。なお、2月の現金給与総額は前年を下回った。

(5) 個人消費： 底堅い動きとなっている。

- ・ 大型小売店売上高は、衣料品が弱めの動きとなっているものの、高額品が好調を維持しており、全体として底堅い動きとなっている。
- ・ 家電販売は、白物家電の販売が堅調であるものの、薄型テレビの売上が引き続き弱めの動きとなっているため、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 乗用車販売は、エコカーや輸入車の売れ行きが好調で、持ち直している。

《参考》

- ・ 県内ホテル・旅館の稼働状況を見ると、持ち直しの動きが続いている。

(6) 住宅投資： 持ち直している。

- ・ 横浜や川崎エリアの分譲マンションを中心に需要が底堅く推移している中で、住宅着工戸数は、持ち直している。

(7) 公共投資： このところ減少している。

- ・ 3月の公共工事請負額は、4カ月連続で前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 増加傾向を維持している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、不動産・住宅関連向け貸出が好調なことに加え、経常運転資金を中心に、その他大手法人向けにも動意がみられることなどから、増加傾向を維持している（貸出金末残前年比：2月+1.1%→3月+0.8%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、低下傾向を辿っている（月末貸出約定平均金利前月差：1月▲0.006%→2月▲0.011%）。

(2) 預金： 増加傾向を維持している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金で順調な増加が続いていることなどから、増加傾向を維持している（実質預金末残前年比：2月+2.6%→3月+2.2%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。